令和４年９月７日　特別号

笛南中だより

甲府市立笛南中学校
文責　校長　井上有史

全国学力･学習状況調査結果

令和４年度の全国学力・学習状況調査は，全国の中学３年生と小学校６年生を対象に，４月１９日（火）に実施されました。本年度は，例年実施されている「国語」「数学」に加え，「理科」が調査対象に加わり，３教科での実施となりました。また，生徒の生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」についても例年通りの実施となりました。調査の目的は，生徒の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより，今後の指導改善に役立てることです。本校の分析結果がまとまりましたので，その概要をお知らせするとともに，HP にも掲載いたします。

本校の状況

本校の平均正答率は，「国語」「理科」は全国・県平均とほぼ同等，「数学」は全国・県平均を若干下回る結果となりました。

	国語	数学	理科
山梨県平均正答率	70	51	50
全国平均正答率	69.0	51.4	49.3

各教科の状況

国語

＜成果と課題＞

〇全体として，「知識・技能」に関して全国・県平均を上回る結果となっており，基本的な知識の理解はできていることがわかる。しかし，「思考・判断・表現」が県を下回っていることから，既習の知識を表現に生かすことができていないと考えられる。

〇記述式の問題に対する無答率は全国・県の平均より高い反面，正答率が平均を上回る結果となった。反対に，選択式の問題の無答率は低いが，正答率が平均を下回っている。この結果から，「記述式問題に苦手意識をもっている生徒は，解答そのものに消極的である」ことが読み取れる。本校生徒の記述式問題に対しての取り組み方に差があることがわかる。

＜教科における主な改善点＞

①漢字の読み書きや言葉の使い方などの「知識」に関しては，毎週行っている小テストの効果が出ていると思われる。今後も継続していきたい。

②本校の生徒は，全体として自分の考えを書いたり，話したりして表現することを苦手とする傾向があり，日常的に自分の考えを話したり，書いたりする訓練をしていく必要がある。そのために，昨年度，帯学習として１年間続けた「短作文」と「ペアスピーチ」は有効であったと考える。今後の学習指導に再度取り入れていきたい。

数学

＜成果と課題＞

〇領域別にみると，「数と式」については正答率が全国・県平均とほぼ同等であるが，「図形」「関数」「資料の活用」においては下回っている。図形の証明においては，用いられている合同条件は理解できていても，根拠を示すことに課題が見られる。また，関数の変化の割合の意味を十分に理解していない生徒も多い。「データの活用」では，箱ひげ図から分布を読み取ることに課題がある。

〇観点別に見ると，「知識・技能」「思考・判断・表現」において，全国・県平均より正答率が若干下回っている。

〇問題形式別に見ると，短答式については全国・県平均を上回っているが，記述式の正答率に課題が見られる。

＜教科における主な改善点＞

①まず，各領域における基礎・基本事項を身に着けるため，小テストや家庭学習などに粘り強く取り組ませたい。

②思考力を要する問題については，過程を大切にして問題を解くということを意識させたい。文章題に限らず理論的に過程を追うことができるということを重視しながら学習を進めたい。また，友達同士の教え合い学習の機会を頻繁にとることで，説明をして相手に理解してもらうという体験を何度も経験させていきたい。

③１つの問題を解くにあたり，結論（答え）を導くには問題を整理し，筋道を立てて考え，数学的に説明できるようになることを重視した指導を進めたい。

理科

＜成果と課題＞

○観点別に見ると，「知識・技能に」おける正答率が全国・県平均を若干下回っており，基本的な知識の定着に課題が見られる。

○領域別に見ると，「粒子」「地球」分野では，正答率が全国・県平均よりも上回り，「生命」でも全国を上回った。

○「地球」分野における天気での正答率が低く，グラフや天気図の読み取りに課題が見られる。

○「エネルギー」分野においては，正答率が全国・県平均を下回っている。感染症対策による実験の減少や結果の読み取り，考察する学習が十分でなかったことが原因として考えられる。

○記述式の問題に着目すると，無回答率が高い傾向があり，思考力・表現力に課題が見られる。

＜教科における主な改善点＞

①基本的な知識の定着を図るため，各単元の終わりや定期テスト前などに，計画的なワークでの復習や，家庭学習の質的向上を図りたい。

②思考力・表現力の育成については，主に実験を通して考察することや，グラフ等の読み取り，分析する学習等を増やしていく必要がある。感染症対策で実験室や実験機器使用に制限があるものの，ICT 機器を活用し模擬演習や動画等を導入すること等により，改善を図りたい。

③「エネルギー」分野に関しては，練習問題等を増やし，発展よりもまず基礎的な考え方をつけさせていきたい。

質問紙調査の結果について

今回の質問紙調査は，例年と同様に学校や家庭における学習や生活の様子について，69 の質問項目により実施されました。結果を詳細に見ていくと，69 の項目の内，31 項目が全国や県よりも良好な状況，25 項目がほぼ同等な状況，13 項目については改善が必要な状況でありました。また，他との比較ではなく本校生徒の特徴的な様子も明らかとなりましたので以下にご報告いたします。

質問紙調査の主な特徴

○友だちと協力するのは楽しい（95.2%），学級での話し合いを生かす（88.1%），学校に行くのが楽しい（85.7%），わからない課題を友人に聞く割合が全国や県より高い等，充実した学校生活や友人関係の様子がうかがえる。

○人の役に立つ人間になりたい（92.8%），自分でやると決めたことはやり遂げる（90.5%）等，将来の向けて前向きな気持ちで行動している生徒が多い。

○各教科（国・数・理）の学習の大切さや，将来役に立つことを意識して学習に取り組んでいる生徒の割合が全ての教科において 90%を超え，全国や県を大幅に上回っている。

○平日や休日に家庭で１時間以上学習している生徒の割合が全国や県を上回っており，家庭学習の定着の様子がうかがえる。

○地域の行事に参加している生徒が多く（76.2%），全国（39.9%）や県（58.8%）の数値を大幅に上回っている。地域との強い結びつきがうかがわれる。

●難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している（57.2%），将来夢や目標を持っている（64.3%），自ら考え取り組んでいる（64.2%）生徒の割合が，全国や県よりも低く課題である。

●1，2 年時の授業で ICT 機器（PC・タブレット）の使用回数が少なかったこと，学習に ICT 機器を全く活用していない生徒の割合が高いこと，ICT 機器の有用性についての意識が低い生徒が多いこと等，ICT 機器の使用に関する課題が見られた。

質問紙調査からの改善点

○今回の調査を受けた３年生については，感染症のため入学当初の学校休業や，分散登校，諸行事の中止や規模縮小等，様々な影響を受けてきた学年である。そのため，外部との関わりや色々なことにチャレンジする機会がとても少なく，様々な生活上の制限を受け続けてきた経緯がある。特に，本来ならば２年生で実施される「職場体験」学習は，子ども達のキャリア育成に向けとても貴重な行事であったはずだが，残念ながら中止されてしまった。学校では代替として職業講話やこうふドリームキャンバス等の機会を有効活用し，将来の夢や目標を持たせる指導や，失敗を恐れず挑戦する姿勢，主体的に将来を切り開く資質・能力の育成を図る取り組みを行ってきたが，十分な成果には繋がっていないことがうかがえる。今後は，感染症対策を徹底しながら，可能な限り外部の教育資源を活用した教育活動を推進していきたい。特に，令和４，５年で研究を推進することになっている青少年赤十字活動への取り組みや，来年度設置が予定されている学校運営協議会との連携強化を通して，資質・能力の育成を図りたい。

○ICT 機器の活用に関する課題については，本調査終了後の１学期後半より，GIGA スクール構想に関わる ICT 端末を活用した本格的な教育活動がスタートした。夏季休業中は ICT 端末の持ち帰りによる家庭での活用や ICT 機器を経由しての課題提出等にも取り組んできた。e ライブラリ（学習コンテンツ）の活用による学習回数も飛躍的に増加していることから，生徒達の意識向上も図られるものと期待している。引き続き，全職員での計画的，継続的指導を進めたい。